

ウチムラサキ増殖技術の開発

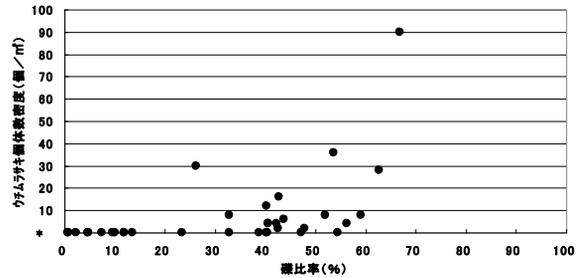
【背景・目的・成果】

かつて東播磨海域に多量に分布していた二枚貝のウチムラサキは濾過食性ベントスとして珪藻類を摂餌するとともに、養殖ノリに必要な溶存無機態の窒素、リンを排出するので、ノリの色落ちを防止し、健全な漁場環境の維持に重要な役割を果たしていると考えられています。しかし近年ではその資源量は激減しており、資源復活が望まれています。

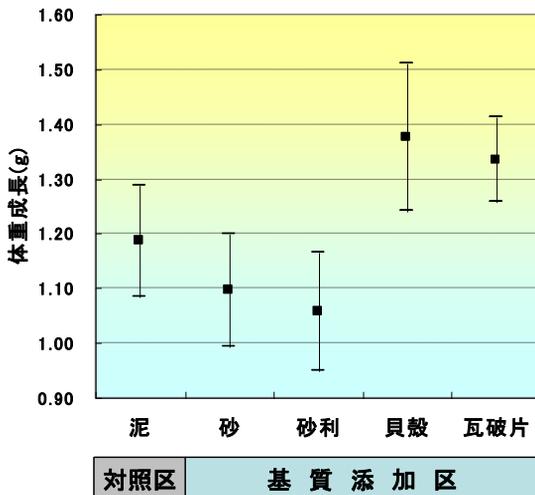
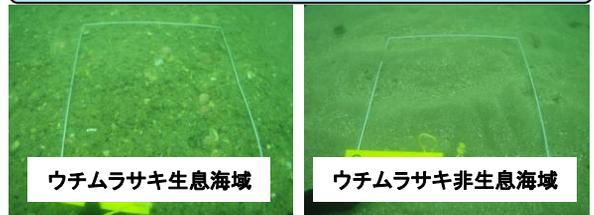
水産技術センターでは、ウチムラサキ種苗量産技術を開発するとともに、ウチムラサキ生息適地の条件を明らかにして天然海域での増殖手法を開発しました。



ウチムラサキの生息域は縮小しています。



ウチムラサキは殻の多い海底を好みます。



砂泥海底に貝殻や瓦破片を添加することによるウチムラサキの成長促進効果が認められました。



基質添加によるダウンウェリング飼育(殻長0.2~1mm)



アンラサイトを用いた垂下飼育(殻長1~20mm)

殻長20mm種苗の量産技術も確立しました。

【技術の活用】

本研究の成果は、ウチムラサキ増殖のためのガイドラインとしてまとめられ、種苗生産機関におけるウチムラサキ種苗生産や関係漁業組合のウチムラサキ放流事業のための指針として活用されています。